

第3回かわさきコンパクト委員会 議事録

日 時：2016年2月8日（水）16時～17時

場 所：川崎市役所第4庁舎2階 研修室

出席者：〔委員〕小倉、庄司、末吉、鈴木、瀧田

〔川崎市〕地球環境推進室 中村、井田、石井、新谷

〔事務局〕一般社団法人CAT 犬塚、小熊、山崎

1 開会

2 議題

(1) 交流会の振り返り

委員会直前に実施した交流会についての意見交換を行った。

- （委員）国内企業の不祥事が続いているなかで、コンパクトの必要性を感じた。理念の浸透を図るため、ワークショップが身近なところで行われるとよい。
- （委員）多様なステークホルダーを設定してその役割を担うことで、一つの事象に色々な見方があることを体感できた。
- （委員長）いつもとは違う役割を担うことで多角的にとらえることができ、自分たちの事業を推進していく中でもこのような視点の必要性を感じた。また、企業のかたから、他の企業や団体との交流を大事だと思っているという感想を伺って、やはり交流会は大事だと再認識した。いつもと違うやり方で、事務局としてはやりにくいことはなかったか？
- （事務局）やりにくい、ということはなく、参加者の皆さんには、様々な役割を担うことを本気で取り組んでいただいて「いつもとは違う視点を持つことができた」という感想をいただいた。参加者は、4社7団体だった。
- （市）グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンのかたから、「いつもは一企業内で依頼されて実施することが多く、意見が比較的同質化しやすいが、今日は活発な意見交換があってよかった。今後の参考になった」というお言葉をいただいた。

(2) 事業報告（1月末現在）について

1月末現在の事業報告について資料に基づき事務局から報告があった。

- （市）現在、事務局で冊子の編集を進めている。最新の情報を掲載している。
- （委員長）報告書未提出の団体や企業であっても、参加については前向きにとら

えてもらっているか？連絡がつかない、などないのか？

- ▶ （市）冊子に関しては、全ての団体に連絡を取られており、ご協力をいただいている。
- ▶ （事務局）報告書については連絡がつかない、ということはないが、直接話すとすぐにも提出します、という意思表示はある。

(3) かわさきコンパクトの今後の展開について

参加方法の変更などについて、資料に基づいて市から説明があった。

- ▶ （市）報告書の提出は滞りがちだが、冊子への関心は高いなかで、参加報告書から冊子での活動報告、と報告の方法を変更する。ただ、毎年中身が変わらないという懸念があり、少しでも前年度に実施した活動を盛り込むようにしていきたい。参加方法は、審査会方式からエントリー方式にする。他にもセミナーの活性化として、エコ・クロスマッチングのようなものをコンパクトとしてもやっていきたい、と考えている。交流会についても対等な意見交換ができるワークショップなどを企画したい。KCも10年経ち、見直しをするいい機会ととらえて、原則や理念についても委員と会員が議論できるような場を設けられたらと考えている。
- ▶ （委員）エントリー方式になる懸念としては、特にお金が絡むようなことで自分たちの信頼性の担保にKCが使われることだ。ハードルを低くするのであれば、「趣旨に賛同するのであれば歓迎します。だがこのことが何かを保証するものではない」といった一文をどこかに入れるといいかと思う。善良な市民が被害を受けないようにするにはどうしたらいいか検討してほしい。
- ▶ 一方、正式にエントリーしなくても「KCを支援します、賛同します」という簡単に意思表示できるようなものがあると、KCが多くの市民の目に触れられる。個人でも企業でも賛同者を増やすというのも方策としてはあり得るのではないか。
- ▶ （市）今後も飛躍的に伸びることは期待しにくい。賛同者が多いということは重要な視点であるので仕掛けについて考えていきたい。
- ▶ （委員）KCに参加しているモトスミ・ブレーメン通り商店街や大手企業がけん引役になると広がりやすいのではないか。
- ▶ （委員）市役所通りや地下街の商店街などにそういったマークがあると、市民の目に触れやすくいい。川崎市が官民合わせて、共通認識としてKCがあるという素地を作ると他市との差別化ができる。そういったものを育てることが大事である。
- ▶ （市）地道に進めてはいるが、爆発的に伸びるしかけも検討していきたいので、色々ご意見いただきたい。
- ▶ （委員長）モトスミ・ブレーメン通り商店街では一店一エコ運動をやっているが、お店が変わると引継ぎされにくく、一丸となって進めていくということは難しい面もあるようだ。それでも川崎市が取り組んでいく、ということの後ろ盾があれ

ば、各商店街も進めていきやすいのではないか。冊子については、毎年内容を変えていかないとマンネリ化するのでそこを意識して報告してもらう工夫が必要である。

- (委員) 今日の交流会では、環境以外の視点、問題提起もあったが、かわさきコンパクトを振り返ってみると、人権福祉など取り組んでいる先進的な企業の発掘があってもいいのではないか。現に日本理化学工業のような障がい者雇用に取り組んでいる企業があるが、他にも富士電機などは女子社員を高く評価し積極的雇用を進めていて国からも表彰されている。そういうところの発掘があってもいいかと思う。
- (委員) 子どもコンパクトはできないのか？
- (市) あらゆる世代がどのように関わってくるのか、検討すべきところとは思っている。本日のようなワークショップも大人だけではなく、もう少し下の世代がやるのもいいのではないかと思う。
- (委員) 環境関係では、子どもの取り組みはないのか？
- (市) 単発的なことが多い。KCは息の長い活動になるのでしかけが必要であるかと思う。
- (委員) 子ども会議についてはどうか？
- (市) コンパクト、というと、どこから接点持つのが難しく、環境というテーマがいいとは思っているので、今後も検討事項としていきたい。
- (委員長) 賛同者を増やす、商店街にけん引役になってもらう、人権福祉の視点、子どもなど色々ご意見もらいました。皆さんの意見を来年度の計画にぜひ反映していただきたい。
- (市) 来週の国際環境技術展で、末吉委員の講演があり、冊子を配布する。
- 作成した冊子を効果的に利用して、周知・啓発を図っていきたい。

3 閉会